

令和 6 年度

札幌科学技術専門学校

自己評価及び学校関係者評価結果報告書

学校法人 総合技術学園

札幌科学技術専門学校

本校における学校評価は、学校教育法及び学校教育法施行規則に従い、学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため、必要な措置を講ずることによりその教育水準の向上に努めることを目的としています。

また、自己評価の結果については、学校関係者評価委員会による評価を行い、その結果を公表することにより説明責任を果たすとともに、地域や企業との連携・協力による特色ある専修学校づくりを図っていくことに努めます。

1. 学校関係者評価委員および学校評価委員

<学校関係者評価委員>

氏 名	種 別	所 属
A 氏	高等学校関係者	元 道立高校校長 現 私立高校校長
B 氏	地域住民	大通地区西 1 7 丁目町内会
C 氏	卒業生	専門課程第 4 期卒業生（生物工学科）
D 氏	保護者等	専門課程二級自動車整備士コース 2 年生保護者
E 氏	関連業界関係者	株式会社 滝川自工

<学校評価委員>

氏 名	種 別	所 属
児玉 佳範	学校教職員	札幌科学技術専門学校 校長
神 卓磨	学校教職員	札幌科学技術専門学校 学務部長
佐藤 岳	学校教職員	札幌科学技術専門学校 就職支援室長
須田 愛弓	学校教職員	札幌科学技術専門学校 総務部次長
飯田 義之	学校教職員	札幌科学技術専門学校 建築技術学科学科長
木津 宜之	学校教職員	札幌科学技術専門学校 高等課程 教務部主任

2. 自己評価及び学校関係者評価委員会の日程

- ①10/2・第 1 回学校評価委員会：学校評価の在り方等について
- ②11/1・第 2 回学校評価委員会：学校評価の見直しについて
- ③12/6・第 3 回学校評価委員会：自己評価項目の検討について
- ④1/22・自己評価案の検討（稟議）
- ⑤2/25・第 4 回学校評価委員会：最終案の検討、業務分担の確認
- ⑥2/28・教職員に対する自己評価の実施
- ⑦3/14・第 5 回学校関係者評価委員会：自己評価結果の共有、学校関係者評価委員会との連携
- ⑧3/18・教職員への公表、学校関係者評価委員への結果報告、意見の聴取依頼
- ⑨3/26・改善策の検討
- ⑩5/14・第 6 回学校関係者評価委員会：学校関係者評価委員への自己評価結果及び改善策等の評価依頼
- ⑪5/25・令和 7 年度学校関係者評価委員会開催
- ⑫5/26・「令和 6 年度自己評価及び学校関係者評価結果報告書」の作成
- ⑬6/10・上記報告書のまとめ
- ⑭6 月旬以降 ・HP 等で公表予定

3-1. 令和6年度自己評価結果《専門課程》

評価点：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

項目	番号	質問内容	評価点	平均
・目標 教育理念	1-1	本校の教職員として、教育理念、教育目標、教育方針等は理解しているか	3.3	3.1
	1-2	学生や保護者等に対して、本校の教育理念等は周知、理解されているか	3.0	
	1-3	社会や関連業界のニーズを理解し、教育目標の達成に向けて学生の実態を踏まえた教育を展開しているか	2.9	
学校運営	2-1	「学校運営方針」や中期目標「科技専中期ビジョン 2022～2027」について理解しているか	3.1	2.8
	2-2	中期目標を踏まえた事業計画となっているか	2.9	
	2-3	組織・体制は学校運営上、有効に機能しているか	2.6	
	2-4	学則・就業規則は法令や規則の変更等に応じて見直しが行われているか	2.8	
	2-5	教育活動等に関する情報公開がホームページ等で適切になされているか	2.9	
	2-6	情報システム化によって帳票管理等の業務効率化が図られているか	2.4	
教育活動	3-1	教育理念、教育目標に沿ったカリキュラムの編成や実施がなされているか	3.0	3.0
	3-2	育成人材像や関連業界のニーズを踏まえ、修業年限に応じた教育到達レベルを設定し、そのための学習時間を確保するためのカリキュラムとなっているか	3.0	
	3-3	実践的な職業教育を達成するために教育方法の工夫や開発等を行っているか	3.0	
	3-4	実践的な職業教育として、インターンシップや職業見学等を積極的に利用しているか	3.1	
	3-5	明確な資格取得目標を設定し、カリキュラムの中で体系的に指導を行っているか	3.4	
	3-6	関連分野における最新の知識や技術を備えた教育（本務・兼務を含む）を配置できているか	2.9	
	3-7	教員に対して、関連分野における最新の知識や技能等の修得、指導力向上その他を目的とした研修等に参加する機会を提供されているか	2.8	
	3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.7	
	3-9	成績評価、進級または卒業認定の基準は明確であるか	3.1	
学修成果	4-1	就職支援室との連携を強化するなどして、就職率の向上が図られているか	3.2	3.2
	4-2	対策授業を行うなど、資格取得率の向上が図られているか	3.5	
	4-3	学生支援センターと連携を強化するなど、退学率の低減が図られているか	3.0	
	4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍を把握しているか	3.1	
	4-5	就職先企業との情報交換などにより卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	2.9	
学生支援	5-1	進路・就職に関する支援体制は十分に機能しているか	3.3	3.1
	5-2	学生相談に関する体制は十分に機能しているか	3.4	
	5-3	学生・保護者を経済的に支援する体制はあるか	3.4	
	5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7	
	5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7	
	5-6	情報交換や情報提供など保護者と適切な連携がなされているか	2.9	
	5-7	卒業生への支援体制はあるか	3.0	

環境教育	6-1	教育施設や設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備、更新されているか	2.3	2.7
	6-2	インターンシップ等を奨励するために学生が学外で活動しやすい教育体制となっているか	2.8	
	6-3	防災に対する訓練・組織編制(体制)は整備されているか	3.0	
募集 学生の受け入れ	7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	2.9	3.0
	7-2	学生募集活動は、適宜、見直しや工夫が行われているか	3.0	
	7-3	学生募集活動において、学校案内やホームページ等で教育成果(資格取得・就職状況等)は正確に伝えられているか	3.0	
	7-4	学納金は学校経営や学生募集の観点から妥当なものとなっているか	3.1	
財務	8-1	学校の財務基盤は安定しているか	2.1	2.9
	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.9	
	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	
	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.0	
法令等の 遵守	9-1	労働環境における就業規則や定年規定など、関連する法令・規定の遵守と適正な運営がなされているか	2.9	2.9
	9-2	個人情報の保護や適正な活用に関する、意識の醸成がなされているか	2.9	
	9-3	自己評価の適切な実施及び学校関係者評価委員との連携による学校運営の改善を行っているか	2.9	
社会貢献・ 地域貢献	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献(試験会場やセミナーなどへの貸し教室等)を行っているか	3.2	3.0
	10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	2.8	
	10-3	地域に対する公開講座・教育訓練(中学生の受け入れ等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.1	
国際交流	11-1	留学生の受け入れについて、担当する部署や役割分担が組織として位置づけられているか	2.9	3.0
	11-2	留学生の学習・生活指導等について、支援するための体制が整備されているか	2.9	
	11-3	日本語教育機関、留学生進学相談会に対して、情報提供・情報共有等の取組みが行われているか	3.1	
	11-4	受け入れ後において、在籍管理(出席・学習状況の確認等)が適切に行われているか	3.2	

3-2. 令和6年度自己評価結果【高等課程】

評価点：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

項目	番号	質問内容	評価点	平均
・目標 教育理念	1-1	教育理念、教育方針等は印刷物、掲示物等で日常的にその意識を醸成しているか	3.4	3.3
	1-2	教育目標達成のため「教育計画」に則った教育活動が推進されているか	3.3	
	1-3	専門学校への進学や就職への適性を高める選択・コース・分野構成となっているか	3.1	
学校運営	2-1	「学校運営方針」や「科技専中期ビジョン 2022～2027」について理解しているか	2.8	2.8
	2-2	「科技専中期ビジョン 2022～2027」を踏まえた事業計画となっているか	2.5	
	2-3	組織・体制は学校運営上、有効に機能しているか	2.6	
	2-4	給与や時間外勤務等に関する整備、労使間の協議が適切に行われているか	3.3	
	2-5	教育活動等に関する情報公開等がホームページなどで適切に行われているか	2.9	
	2-6	人的管理や教務統計などが、情報システム化により業務の効率化が図られているか	3.0	
教育活動	3-1	学校評価や情報公開に基づく『質の保証・向上』のため、専門課程との連携(情報交換)を図っているか	2.1	2.7
	3-2	高・専一貫教育による産業技術者の育成を目指した取組が、専門課程と連携して体系的・計画的なものになっているか	2.4	
	3-3	実践的な職業教育の視点に立った授業方法の工夫・開発などが実施されているか	2.5	
	3-4	専門課程の各関連学科に関する、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるカリキュラムの設定になっているか	2.9	
	3-5	専門4分野は産業構造の変化や技術の革新に対応しうる能力を育成する教育課程となっているか	3.0	
	3-6	専門課程ガイダンス(1年)・専門課程訪問(2年)による専門課程研究について、計画的・系統的な指導が行われているか	2.8	
	3-7	生徒の学習実態を把握して教員間で共通理解のもと指導に当たれているか	3.3	
	3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.1	
	3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.4	
	3-10	学校教育目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.3	
	3-11	関連分野における優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	1.9	
	3-12	生徒指導や教科指導の研修案内がされており、参加の機会が確保されているか	2.5	
生徒指導等	4-1	基本的生活習慣の確立のための取組が行われているか	3.6	3.3
	4-2	生徒の安全管理のための取組等(災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援など)が行われているか	2.8	
	4-3	生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	3.5	
	4-4	進学・就職指導に関わる段階的な指導体制は整備されているか	3.1	
活動等 特別	5-1	特別活動の目的に沿って、計画的・系統的な指導が行われているか	3.1	3.1
	5-2	保護者会(科技高を応援する会)と連携した活動を推進しているか	3.1	
学修成果	6-1	学年と進路指導部が連携を強化し、進学率や就職率の向上が図られているか	3.6	3.1
	6-2	学年及び教科と連携して、資格取得率の向上が図られているか	3.4	

	6-3	教職員で情報共有し、退学率の低減に向けたきめ細かな対応が行なわれているか	3.3	
	6-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.1	
生徒支援	7-1	生徒・保護者への経済的側面に対する支援体制は十分に機能しているか	2.9	2.8
	7-2	生徒の健康管理に配慮した教育体制はあるか	2.6	
	7-3	学業を優先したクラブ活動や課外活動に対する指導を行えているか	3.3	
	7-4	保護者との連絡・相談、協力依頼など、適切に連携しているか	3.4	
	7-5	卒業生の情報把握と、それを基にした在校生へのアプローチができているか	2.4	
	7-6	専門課程との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	2.3	
環境教育	8-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように、整備および工夫がされているか	1.8	2.2
	8-2	安全施設、防火施設について、点検及び補修・改修計画が示され、適切に行われているか	2.3	
	8-3	防災に対する体制は整備されているか	2.6	
生徒の募集	9-1	中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	2.9	3.1
	9-2	生徒募集活動は、適宜、見直しや工夫が行われているか	3.0	
	9-3	生徒募集活動において、学校案内やホームページ等で教育成果（資格取得・進学または就職状況等）は正確に伝えられているか	3.1	
	9-4	生徒納付金は学校運営や生徒募集の観点から妥当なものとなっているか	3.3	
財務	10-1	中長期的に学校の財務基盤を安定させるための研究・工夫がされているか	1.9	2.3
	10-2	予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなるよう、協議・検討がされているか	2.4	
	10-3	財務の会計監査の報告に対して、内容を適切に把握できているか	2.4	
	10-4	財務情報公開の体制について、整備されているか	2.4	
法令等の遵守	11-1	法令や規則、通知・通達の遵守と適正な運営がなされているか	2.9	2.8
	11-2	個人情報の保護や適正な活用に関する意識の向上が図られているか	2.8	
	11-3	自己評価の適切な実施及び学校関係者評価委員との連携による課題の改善を行っているか	2.8	
社会貢献	12-1	生徒のボランティア活動について啓蒙し、計画的に行っているか	3.1	2.9
	12-2	北校舎として資格試験会場や専門課程との連携・共用を工夫しているか	2.8	

4. 令和6年度 自己評価《専門課程》・【高等課程】に対する 学校関係者評価委員の評価及びご意見・ご感想等について

①令和6年度 自己評価結果《専門課程》・【高等課程】に対する学校関係者評価委員の 評価及びご意見・ご感想等

《専門課程》

- ・ 3.0 前後なのでおおむね適切と考えてよい。
- ・ 評価点の低い項目、例えば(2-3)組織体制、(5-4)健康管理を担う組織体制、(5-5)課外活動に対する支援体制など、どういう体制を作ると高く評価されるのか、点数だけでは見えてこない。そういう点がわかるような提案型の評価のあり方が必要ではないか。

- ・ 全体的に 3.0（ほぼ適切）と評価されており、良いと思います。
- ・ 年々学校の運営やあり方、活動について自主的に行動されてきているのではないかと感じました。
- ・ 唯一（8-1）の学校の財務基盤について 2.1 と低めの評価でしたが、今はどの学校も同じような状況だと思います。
- ・ 卒業生として、学校が長年存在し続けている事はとてもありがたいと思っています。これからも、幅広い世代に認知され、他の学校にはない魅力を伝えていって下さい。これからも応援しています。

- ・ （2-6）情報システム化により業務の効率化を図るべきだと思います。
- ・ （8-1）財務基盤の安定は必須だと思います。

【高等課程】

- ・ 専門課程に比べて、2 点台が多い。1 点台もある。
- ・ 人材の確保は道立・私立高校も大きな課題となっている。解決は難しい。
- ・ 専門課程の連携について、どういう連携のあり方を求めているか、問うてみたらどうでしょう。突破口が見えて来るかもしれません。

- ・ 専門課程同様に、ほぼ適切と評価されていますが、（3-11）教員の確保、（8-1）施設・設備の整備、（10-1）長期的な学校の財務基盤については若干評価が低いので、（3-11）については、教員をめざしている若者へのアプローチの強化が必要だと感じました。
ただ、財務状況の基盤が不安定なだけに、今後どう工夫していくのか、大変でしょうが、今後の活動を応援しています。

- ・ （3-1）専門課程との連携は大事です。
- ・ （3-11）教員の確保は重要と思います。
- ・ （10-1）財務基盤の安定は必須と思います。

《専門課程》・【高等課程】共通

- ・令和6年度自己評価、事業報告を拝見して驚いたのは、各項目に多少の凸凹は有るもののバランス良くポイントをゲットしている事です。何よりも校長先生の指導のもと、生徒に対する愛情を強く感じる事です。
- ・結果を見て、合格率のハイレベルには、驚きとしか言いようがありません。お見事の一言です。世の中、資格が幅をきかせますから生徒が社会へ旅立った時に肩身の狭い思いをしなくて済むと言う事、生徒自身が恵まれた環境に居た事を痛感すると思います。
- ・自分も現役時代に社内、又業界統一試験の合格に苦労した事が思い出されます。科技専の教育の高さに拍手を送ります。

②令和6年度「自己評価」結果に対する具体的に改善策に関するご助言がありましたら お願いいたします。

- ・第三者が改善策を考えるのは難しい。
- ・教職員からの提案を吸い上げて、具体化して行く必要がある。

- ・専門課程、高等課程ともに、財務基盤は苦しい面があると思いますが、科技専だからこその強み、他の学校では体験できない体験実習の楽しさや魅力、そして、資格取得ができる事など、たくさんのイベントを通して幅広い世代の方たちに知っていただければ良いですね。

- ・優秀な教員を採用する為に待遇改善を進めてもらいたいです。

③その他、お気づきの点がありましたらお知らせください。

- ・専門課程の休学者（特に1年生）の対応が必要。
- ・自然環境学科の長崎大学、愛媛大学について、特別な指導をしているか知りたい。

- ・4月以降、対面での評価委員会を予定されているようですが、仕事などの都合で参加できない事もあるかと思います。
その際は都度連絡をいたします。よろしくお願いいたします。

- ・先生達の指導・育成のおかげで息子も無事に卒業・就職出来ました。
5年間ありがとうございました。

5. 自己評価に対する改善策について

①項目：「教育理念・目標」、「学校経営」の分野（校長）

(2-6) 情報システム化によって帳票管理等の業務効率化が図られているか。(2.4)《専門課程》

(2-6) 人的管理や教務統計などが、情報システム化により業務の効率化が図られているか。

(2.4)【高等課程】

〈改善策〉

- ・教職員が使用するPCのサポートが2025年10月をもって終了することから、令和7年度において、必要台数を更新する予定である。計画的に年度予算に計上しており、入れ替え作業が終了する予定の秋以降、業務効率化を図ることができる。

②項目：「教育活動」の分野（神）

(3-7) 教員に対して関連分野における最新の知識や技能等の習得、指導力向上その他を目的とした研修等に参加する機会を提供されているか(2.8)《専門課程》

〈改善策〉

- ・従来案内している北専各連が主催する各種研修への参加斡旋の他に、各専門分野の研修会等への参加希望を教員から幅広く募集し、参加を促す。

(3-8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか(2.7)《専門課程》

〈改善策〉

- ・就職担当者が収集した企業側の見解を学科にフィードバックするとともに、希望学科には企業が来校した際に同席し、現場で求められる人材と本校の教育内容について情報交換する場所を設ける。

③項目：「学生支援」、「教育環境」（佐藤）

(5-4) 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか(2.7)《専門課程》

〈改善策〉

- ・現在の休憩場所を静かな場所に変更する。
- ・本校舎北側を駐車スペースとしてTimesレンタカーに提供し、利用しやすくする。

(5-7) 卒業生への支援体制はあるか(3.0)《専門課程》

〈改善策〉（試験的に実施済み）

- ・卒業式で卒業生に配布していた文書「証明書の発行について」を昨年度卒業式より「証明書の発行および卒業サポートについて」に変更し、卒業後の就職活動や仕事の悩みを相談できる窓口の設置および周知を行う。
- ・卒業後半年を目途に就業状況のアンケートを実施し、回答を契機に卒業生との繋がりを図る。

(6-1) 教育施設や設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備、更新されているか。

(2.3) 《専門課程》

〈 改善策 〉

- ・ 必要な設備や機器のリストアップを行い、関係企業等へ連絡・訪問時等にリストを配布し、提供を依頼する。
- ・ 夏休み等の長期休業中に共有スペースの大掃除や塗装を行い、清潔感を取り戻す。
- ・ すぐに整備できない設備や機器については、インターンシップや企業訪問等を活用し、設備や機器に触れさせる機会を設ける。

④項目：「教育活動」、「生徒指導」、「生徒支援」、「学修成果」、「教育環境」、「財務」
(以下全て高等課程)

(3-1) 学校評価や情報公開に基づく『質の保証・向上』のため、専門課程との連携（情報交換）を図っているか。(2.1)

(7-6) 専門課程との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか(2.3)

〈 改善策 〉

- ・ 専門課程との連携は、高等課程教職員のほとんどが必要性を感じていながら、その場面がないと諦めている感があります。なければ自分で機会を設けるべきだとも思うのですが、高等課程の一教員が専門課程の先生と個別に連絡を取って調整し、会いに行って連携を図るというのも敷居が高く難しいものであるとも思います。
- ・ 令和5年度の開始にあたっては、専門課程の「学生支援センター」「広報部」「学務部」から声掛けをいただき、連携の一環として高等課程の生徒・保護者に案内、説明等をしていただくなどの動きがありましたが、その動きを高等課程4分野の先生と関連学科の先生との間でも取っていき、今後どういった連携が可能か、有効であるかなどを話し合っていくことが必要かと思いますが、上記の通り教員が個人で動くのは行動を起こしづらいのであれば、校長代理、教頭などの管理職が手配して調整を取り、場面を設けていくのが良いかと思います。

(3-11) 関連分野における優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか(1.9)

〈 改善策 〉

- ・ 教員の確保といっても、求人に対する反応は限定的であり、個々の研鑽に頼るしかない状況にあると思います。また、離職する教員の補充については、応募は極めて少なく、人づてに紹介などを受けて辛うじて採用している状況です。早期からに加えて幅広い求人（ハローワーク以外）を行うなどが必要と感じます。

(4-2) 生徒の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援など）が行われているか（2.8）

〈 改善策 〉

- ・在籍生徒の実態として多くの生徒が学校生活に課題を抱えやすい特性を持っていることから、学級担任の生徒への対応に難しさがあります。特に発達障害などへの対応についてスクールカウンセラーや外部機関との連携が望まれます。現在改善策として「学生支援センター」との連携体制を構築し始めたところであり、これを核にして外部との連携に繋がるよう取組みを強化したいと思います。

(6-4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（2.1）

〈 改善策 〉

- ・在校生について、社会的な活躍や評価に繋がる活動をしている生徒は少数となっています。部活動への参加も少なく大会参加も限られている状況です。今後生徒の社会的な活躍の場を広げるために、授業での取組を外部へ発表する機会を設けることや、関連企業などとコラボレーションするなどして活躍の場を設けられるよう検討することが必要と思われます。

(7-5) 卒業生の情報把握と、それを基にした在校生へのアプローチができているか（2.4）

〈 改善策 〉

- ・卒業生については、自主的な報告や母校への訪問の際に近況を把握する程度で、学校側からの確認などは業務としては一切行っていないのが現状です。離職せず、活躍しているであろう卒業生をピックアップし、在校生への講演を依頼していますが、不十分かと思います。専門課程で実施している卒業生への働きかけを参考に、高等課程でも組織的に業務として実施すべきかと思います。

(8-1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように、整備および工夫がされているか（1.8）

〈 改善策 〉

- ・校舎の移転が確定している中、大規模な修繕などは望めないと思いますが、水道、酷暑、暖房などが原因で休校に陥るような事態は避けられるよう、応急・一時的な対応であっても工夫して学校運営を継続させられるようにしたいと思います。
- ・上記（8-1）とも関連しますが、現校舎の移転・解体、学校財政の課題もあり対応しきれていない状況は否めません。しかし移転までのわずかな期間でも生徒、教職員の安全が保たれるよう今後もこまめな点検を継続し不具合箇所の早期発見、早期対応により安全維持に努めていきたいと思っています。

(10-1) 中長期的に学校の財務基盤を安定させるための研究・工夫がされているか (1.9)

〈 改善策 〉

- ・令和7年度生は、入学者22名と振るいませんでしたが、それ以前は最大限の努力と工夫をしながら30名以上の入学者数を確保していました。しかしながら今後は移転後の教室確保の点から定員数が25名となり、生徒募集に関してそこまでの努力・工夫の必要性がなくなってしまったように感じます。その一方で教職員の雇用は守るということであれば、昇給や賞与は期待できないままで雇用が継続されるのではという懸念を感じています。財源が学生・生徒の学納金しかないこと、教職員の雇用は継続されること、北校舎の維持費が不要となること、その他の要件を踏まえ、中・長期的な予算執行計画を求めます。

以 上

6. 令和7年度第1回学校関係者評価委員会 委員からの評価・ご意見等 ※関係分抜粋

(令和7年5月25日(日) 10:00～11:00)

①質疑応答・ご意見等

〈A氏〉

- ・4、4の2、2ページ

高等課程 4-2「生徒の安全管理のための取り組み等」の中に、災害共済保険って書いていますが、これはどういう意味でしょうか。

(木津委員)

高等課程では災害共済保険という名前の保険には加入していないが、別に「日本スポーツ振興センター災害共済給付制度」に加入している。

〈A氏〉

全員の加入ですか。

(神委員)

そうです。基本的には全員加入して、それ以上の支援が必要なものについては任意で加入していた。

〈A氏〉

わかりました。

もう1点について。1ページの1番下5-7「卒業生への支援」ということで、卒業式に生徒に文書を配布したということですが、ホームページから連絡するという形ですか。

(佐藤委員)

以前は学務部から卒業後の書類(卒業証明書等)の発行依頼の仕方等の周知はしていましたが、就職支援に関しては特に周知はされていなかったため、今年から試験的に、卒業後も就職のサポートをしていくという内容を加えました。

ホームページ上で卒業後の就業状況についてアンケートを送るということも周知し、そのメールをきっかけに就業状況を把握し、困っている卒業生にサポートを行っていかうということで、同様の内容を記載した文書を卒業式に配布しました。

〈A 氏〉

その卒業後の支援は、困ったら学校ホームページ見て何かするというシステムではないのですね。

（佐藤委員）

ホームページではなく、メールアドレスと電話番号を記載し、そこにいつでも連絡してきてくださいということを明記しております。

〈E 氏〉

今の 5-7 について、今、支援されているということでしたが、現在、卒業してまだ 2 か月ぐらいですが、実際、連絡をしてきた卒業生は居ましたか。

（佐藤委員）

まだありませんが、直接学校に遊びに来る学生は何名も居りました。その際に近況報告や辛いというような話をしてくるケースはありましたが、メールや電話への連絡はまだ無いです。

〈E 氏〉

企業からもサポートしないと辞めてしまうので、卒業生から相談があった際は、その企業にフィードバックするとか、「こういう学生が入ったが、こういうことに悩んでいる」等を企業へのフィードバックを行っていただきたいと思います。

（佐藤委員）

はい、わかりました。

〈E 氏〉

あとは就職してどれだけ続いているかなど（半分やめているとか、何年間で何割残っているとか）、そういう統計を取っていくと思いますが、企業としては参考にしたいと思うので、是非教えていただければと思います。

（佐藤委員）

正確なデータを取るというのは難しいですが、これからは少しずつでもデータ、状況把握ができるようにしていきたいと思っております。

②改善策に対する学校関係者評価委員会からのご意見感想等

- ・特になし

③意見交換（全般を通してのご意見等について）

（神委員）

続きましての議題の 6 改善策に対する学校関係者評価委員会からのご意見等に移ります。

今もいくつかご意見、ご感想をいただきましたが、折角の機会ですので、皆様からご意見をお聞きできればと思っております。私の方から指名させていただきますので、よろしくお願いします。

〈B 氏〉

専門学校は就職に直結する。私の居た企業でも就職して何ヶ月も経たないで会社を去るというケースがすごく多かったので、フォローはちょっと難しいと思います。

現実勤めてみると学生の時の甘さに気づき、学生時代に描いていたその企業のイメージ（理想）と違ったというので辞めるケースがすごく多かったので、それはもったいないと思います。様々なケースがありましたが、学生の時の理想と現実の厳しさ、そのギャップについていけなくて辞めたと思っています。

やはりフォローが難しいと思います。せっかく就職したのに、資格を取ったのに、専門の課程を習得して繋げようという気持ちで入ってきたのに、残念ながら辞めていったという現実がやっぱり厳しさとしてはあります。

（神委員）

ありがとうございます。就職に対するフォローという所ですね。

〈D 氏〉

今年、息子が自動車工学科を卒業しましたが、自動車工学科の卒業生の中でグループラインをつくり、卒業生同士で給料がいくらだとか、ある同級生は7月までが研修期間だ、自分はもう配属されてもうすぐに現場で働いているなど、色々な環境の中で辛い子もいるとは思いますが。その辺を聞いてあげる窓口があると良いと本当に思います。

子供同士だけで話していると、どうしようもできないことやただ比べるだけ、そういう感じになると思うので、窓口があると良い、窓口を大切にしたいと思っています。

〈A 氏〉

高等学校も同じ悩みはあるのですが、高校の卒業生で3年以内に離職した割合は、北海道は高く、55%近い率だという風に言われています。10年ほど前のデータで変わっているかもしれませんが、その理由、離職の原因というのは、コミュニケーションが1番と聞いています。そのため、コミュニケーション能力を高めることも大事ですし、先ほどの発達障害の生徒が多くなってきた。こういう子を就職させてしまったら、それっきりということになり、フォローはなかなかできない。

そのため、企業にはそういう特性がある子を知った上で採用してもらうよう、就職するまでの連携が大事だと思います。また、そういう子はその特性を活かして働ける、そんな場があるはずです。まず、就職する時の企業との関係が大事だということ。

また、高校ではたまに企業の方から電話かかってくることもある。養護の先生が電話を受けますが、「どういう人なのですか」みたいなことがあります。企業との関係も大事な専門学校だと思うので、しっかり企業との関係を作ることが大事だと思います。

もう1点、アンケートを職員にとると、低い点数つける人がいると思います。資料2の1頁の一番上の囲みに書いてあると思いますが、「どういう体制を作ると高く評価されるのか、点数だけで見えてこない。そういう点がわかるような提案型の評価のあり方が必要ではないか。」とありますが、これはつまり、「文句ばかりこう言っているのではなくて、どうすればこれって良くなるの。」っていうことを、吸い上げるようなことはとても大事だということで、あなたはどうかこの点数を高くつけるんだろうか。それをわかるような評価のアンケートが大事だと最近思うようになりました。

点数が低いからといって管理職が考えて提案することは正しくないように思う。点数をつけた人に考えてもらおうとよいと思うようになりました。

〈E 氏〉

先程、就職してからギャップがあるという話がありましたが、私も初めて就職した時もありました。学生に実際の職場のいろんなところを見て、知ってもらいたいと思います。

最初に就職したところは自分の基準点になるので、外部の企業、特に車関係は今そういう見学や体験が多いです。整備士って今 1 番取れない職業ですので、もう少し知ってもらいたい機会、特にうちのような民間整備場は知らない学生が多いと思いますが、そういう機会を与える必要がある。ディーラーも含めオープンに企業が説明できるよう、いろいろなところに行ける機会を作っておけば良いと思う。

私も科技専を卒業してディーラーに就職しましたが、やはりディーラーが自分の普通になって、自社に戻った時に、やはりそのギャップのようなものがあり、ディーラーに比べていいか悪いかってというのは本当にためになっています。

就職してからのギャップを埋めるためにどうしたらいいか。本当に厳しい。いいも悪いもちゃんとそう説明できるような機会あった方が良いでしょう。その様な機会が他の学校より科技専は少ないと感じていますので、増やした方が良いでしょうと思います。

学生が取れないと、やはり学校経営も厳しくなると思う。ただ、去年 20 数名が今年 40 数名になっていますが、何故自動車の学生が増えたのかというのをきちっと検証した上で増やして行って欲しい。やはり学生確保してもらわないと企業として非常に困りますし、学生が入ってこない、安定した経営、そして先程話題にあった設備も更新できないと思います。

トイレが和式だとか洋式になってどうだというように、それだけ見て行きたくないというようなこともある。本当は教育を受けるために来ているはずだが、やはりそういうところも充実していかなければならない。そのためにはやはり学生が取れないとダメだと思う。その辺はギャップも含めて、なぜ増えたのか検証した方が良いでしょう。

なんで増えたのか、何が選ばれ、例えばトイレを更新したから増えたとかなど、なぜ選んだかということが重要です。

〈A 氏〉

今の提案は良いと思います。なぜ増えたのか。

私は入学生と面談をしています。そこで、どうして入学したのか聞くこともあります。

〈A 氏〉

検証をしないと自己満足になってしまうこともある。企業もそうですが。ただ、もう少し深掘りしたら、こういうところで選んでくれたというのが分かることがある。

〈A 氏〉

ただ良かったで終わらないほうが良いのでは。

〈E 氏〉

何が強みで選んでもらったというのは重要で、科技専は立地が非常に良い。やはりそれも強みです。

もう一方の学校は、遠い、交通の便が悪い、お金持ちが多い気がします。他校は親に車を買ってもらい、科技専の学生は車も買えないし、交通機関使って通うが、科技専の子は結構続くと感じている。

そのような強みを生かしてもっとアピールできたら強くなる気はしました。学校の方ではわからない理由で来ているかもしれないので、来ている学生からその理由を汲み取るようなことをすると良いかもしれません。

〈A 氏〉

ちなみに、校舎が古いというのも、もしかすると関係ないのかもしれない。うちの学校もすごく古いのですが、入学の動機に関係あるのかを生徒に聞いたら、そんなことないですという生徒も多かった。意外にこの我々が考えているよりも違うところで学校選びをしているかもしれない。

〈E 氏〉

学校が何で社会に貢献できるかっていう部分をもっと押すということも良いかもしれない。意外と学生話を聞くと、自分の知識で世の中のために貢献したいっていう人も結構いますから。そういう子は、この部分が科技専は強いんだということがあれば入りたくなって思いますし、就職してからもいい戦力にもなると思います。

(神委員)

今回頂いた評価、ご意見を報告書の方に反映させていただきたいと思いますし、学校内でも活かしていきたいと思います。

学校評価委員の皆さん、先生方の方から何かございますか。

④今後の進め方、予定について

(神委員)

今後の進め方、予定について校長よりご説明いたします。

(校長)

それでは、別紙の 4 および要項をご覧ください。

補足の(2)のとおり、今後の進め方、予定として、最終的には、「令和 6 年度札幌科学技術専門学校自己評価及び学校関係者評価結果報告書」として公表する予定であり、作成の段階に移っていきたくと思っています。

中身としては、学校関係者評価のねらいであるとか、委員として活躍いただいている方々の一覧を添付する予定です。また、先ほどご紹介しました自己評価の結果、それを元にした学校関係者評価委員からの評価、今日いただいたご意見を添付するとともに、それを基にして考えました改善策、これらのまとめが主な内容になります。当然、今日いただいたご意見、ご感想等については、これに盛り込んでまいりたいと思っています。

6 月初めを目途に報告書を作成し、ホームページ等への掲載、公表し、担当部署へ提出したい。また、これだけではなく学校の透明性や公開の原則、これらを踏まえて色々なものを公開していく予定です。法律に定めがあり、高等教育修学支援制度の 1 つの要件でもあるため、なんとか早い段階で公表をしていきたいと思いますので、こちらもご覧いただければと思っています。

このように結果報告書をもって、令和 6 年度の学校評価が完結することになります。

令和 7 年度の学校評価に向けて 7 月頃には第 1 回学校評価委員会を開催したいと思っておりますが、どのタイミングでこの委員会を開催するのが適切なのかを早めに検討をしていきたいと思っています。また、このような形での学校関係者評価委員会をどのタイミングで開催するのが適切なのかも含めて検討していきたいと思っています。

それともう 1 つは、今回、評価結果のみで、皆さんに評価や感想、ご意見をいただきましたが、評価しづらい、意見を述べづらい部分があるというご指摘をいただきました。

前年はあらかじめ学校内の委員会で改善策を立て、それを自己評価と一緒にお届けをし、ご意見をいただきましたが、今年は手順を変えてみました。その理由としては、改善策にご意見が集中する傾向が

あったからです。しかし、ご指摘のありましたように、改善策というところまでは非常に難しいというようなご意見もありましたので、令和7年度については昨年と同様に、学校評価委員会の方で改善策をまとめ、自己評価の結果と合わせて皆さんにお送りして評価いただこうと思っています。来年度は手順を前回のように戻す方向で令和7年度に向けて進めていきたいと思っておりますので、ご承知おきいただければと思っています。今後、結果報告書がまとまりましたら、改めてお届けしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

⑤その他

(1) 平日開催について

〈校長〉 平日夜の開催が良いか、土日が良いか意見を聞かせて頂きたい。

〈A氏〉 職務の関係はあるが、どちらでも構わない。

〈B氏〉 現役ではないので、どちらでも構わない。

〈E氏〉 仕事の関係上、平日の夜が良い。

〈D氏〉 今後のみなさんの都合に合わせたい。

〈校長〉 本日欠席のC氏にも確認の上、日程を設定していきます。

(2) 報酬及び交通費について（須田委員）

(3) その他

（神委員）

最後になりますけれども、全体を通して何かございますか。

〈B氏〉

私は良くわからないで指摘したのだけれども。これは卒業して就職した人の追跡調査とかに反映しようということですか。

（校長）

これ自体は直接的には関係ないですが、先ほど来、話題になっていた卒業後のフォローの窓口であるとか、卒業後の支援というものについて、工夫していかななくてはならないと思いますし、その部分でもご意見をいただいておりますので、報告書には盛り込んでまいりたいと思います。

〈B氏〉

初めてでよくわからないのですが、今回のミーティング、ディスカッションをやるのは、文科省か何かからの指導でやられているのですか。

（校長）

先ほど申し上げましたように、法令に基づいて行っており、大枠はガイドラインのようなもので示されております。そのため、それに近い形でそれぞれ学校独自のものがあろうかと思えます。それを加味した形で実施させていただいております。

以 上

7. まとめ

新型コロナウイルス感染症が令和 5 年 5 月 8 日「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の二類から五類へ移行された以降は、極一部を除いて平常な教育活動を実施することができています。

そして、令和 4 年度には「科技専中期ビジョン 2022～2027」が示されたことから、「自己評価」についての項目や質問内容の大幅な見直しを行い、改訂した評価項目・内容で実施し、それに基づいた学校評価は 3 年目となりました。

また、コロナ禍には対面での学校関係者評価委員会を開催することが躊躇され、自己評価結果や改善策等の情報交換による評価や意見を聴取し、それらを踏まえた評価結果報告書づくりでした。そのようなことから、令和 6 年度の学校関係者評価委員会は、是非、対面で実施できるよう計画し、令和 7 年 5 月 25 日（日）に久々の対面による同委員会を開催することができました。対面によるご意見等は、ペーパーを通してのそれより気持ちや本音を感じ取られ、対面での委員会の大切さを再認識することができた貴重な時間でした。次年度以降も計画的に開催したいと思います。

この間、学校関係者評価委員さんによる入学式や卒業式などの学校行事へのご出席やご意見・ご感想等も寄せられ、幅広い観点からの貴重なご意見やアイデアをいただくことができましたことも、大変幸いなことでもありました。

今後は、本校における課題解決のための取り組みと地域や関係する企業等との連携・協力による特色ある専修学校づくりを図るなど、様々な観点から学校運営に反映させることができればと考えています。

最後に、お忙しい中、多岐にわたるご協力をいただきました、学校関係者評価委員の各位に感謝を申し上げ、「自己評価及び学校関係者評価結果報告書」といたします。

令和 7 年 6 月 9 日

札幌科学技術専門学校 学校評価委員会
委員長 児玉 佳範（校長）